

SPECIAL FEATURE > ①

次世代の軽量かつ高剛性な車体実現への挑戦

ジーテクトが目指す車体専門メーカーとは、高いレベルでカーメーカーの開発パートナーとなり、車体開発から量産まで一貫通貫で車体づくりを担うことです。

2018年4月にR&Dネットワークの中核として技術開発をリードする研究施設「ジーテクト東京ラボ(GTL)」が稼働しました。今後は、このGTLを中心とするグローバルR&Dネットワークに産官学の連携を加え、カーメーカーの求める次世代の軽量で高剛性な車体の実現を目指してまいります。

〇 熾烈な競争に打ち勝つ車体専門メーカーへの挑戦

自動車の開発は、そのコンセプト立案から生産まで、一連のプロセスが存在します。

当社はシステム開発やモジュール設計を請け負うESP(Engineering Service Provider)とコンサルティング契約を結び、欧州系カーメーカーの技術ニーズを調査し、その結果をGTLで推進する開発戦略に反映するとともに、ESPが持つエンジニアリング技術を活用することで、車体開発領域への早期参画を図っていきます。



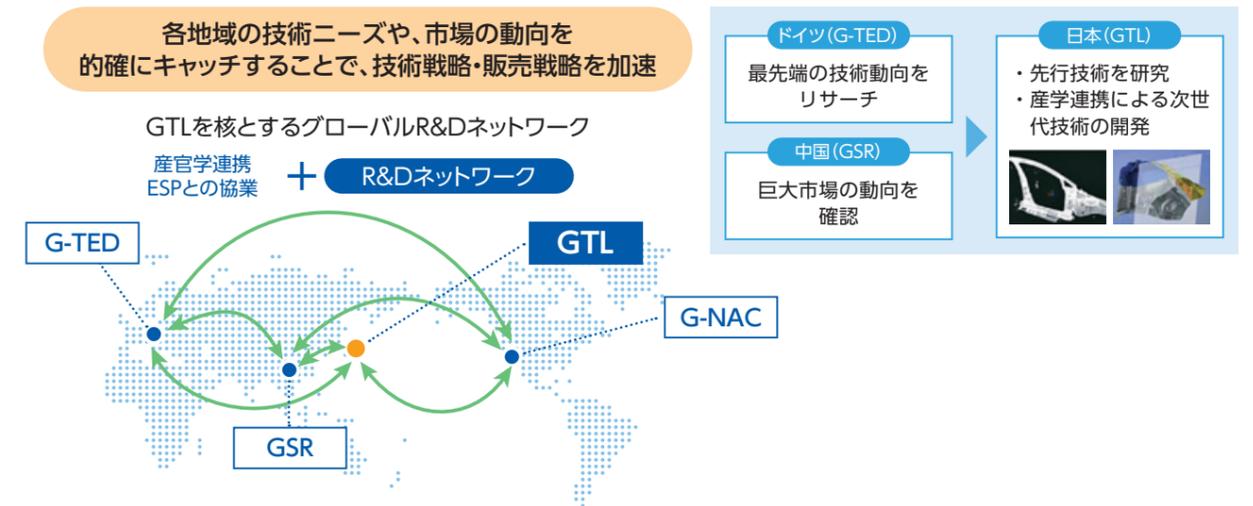
開発領域の上流から参画
受注部品の拡大につなげる

〇 グローバルR&Dネットワークが稼働 技術イノベーションを世界展開

当社のGTLを中心とするグローバルなR&Dネットワークは、研究開発に加え当社の成長戦略を牽引するアンテナ機能として、各地域の技術ニーズや、市場の動向を的確にキャッチし、技術戦略・販売戦略を加速させるための重要な役割を担っています。

例えば、ドイツのG-TEDでは、現地の産官学による共同研究組織にも加入し、最先端の技術動向をリサーチしています。また情報が伝わり難い中国では、現地声を直接吸い上げ、巨大市場の動向を確認しています。

これらのリサーチ結果を受け、GTLでは独自に先行技術の研究を進めているほか、一部では、より専門的な領域へのアプローチを目的に、大学との共同研究を行い、産学連携による次世代技術の開発にも力を入れています。



〇 車体の「軽量化」と「高剛性化」 相反する性能を高次元で両立するために

当社は車体の「軽量化」と「高剛性化」という相反する性能を高次元で両立するために、独自の設計思想によりホットスタンプやウルトラハイテンといった加工技術を磨いてきましたが、部品単位で技術を語ってはカーメーカーの開発パートナーにはなり得ません。そこで早い段階から車体全体の性能解析シミュレーションに着手し、アルミ、ホットスタンプ、ウルトラハイテンといった部品レベルの軽量化技術に、シミュレーションを駆使した車体性能解析技術を掛け合わせることで、最も効果的な車体の提案が可能となりました。

この、より軽く、より強い安全・環境に即した次世代の軽量で高剛性な車体の提案力をアドバンテージに、持続可能な社会の実現に取り組むとともに、自らも持続的な成長と進化を遂げてまいります。

